

被害状況報告会を開催

9月21日から22日にかけて岩手県沖を通過した、大型の台風15号の影響による被害状況の説明会を、10月24日から26日まで6会場で開催しました。報告会では、台風15号の降水量や町がくずまきテレビなどで情報の提供を行ったことについて説明。また、農作物の被害や河川・道路の被害状況を報告し、現段階での今後

の復旧見通しについて説明をしました。会場からは「道路の下を横断しているヒューム管をもっと大きくしてほしい」「屋外告知の内容が聞き取りにくい」「放射線量の測定器を住民にも貸してもらえないか」「放射能の子どもへの影響が心配。高齢者でも理解できるような周知をしてほしい」な

ど、意見や質問が交わされました。町は、災害で農地にたい積した土砂を取り除くための機械借り上げ（5万円以上かかる場合）に対し、助成する予定です。（詳しい内容は、別途お知らせします。）今後、国の災害査定に向けて取り組み、災害復旧工事は早期に進めていきます。



小田林業研修センターでの報告会の様子

農作物の被害

水稲、デントコーン、牧草など	被害面積	3,269 a
	被害額	1,694千円

土木関係の被害

種類	力所数	概算復旧額
道路・河川災害	66力所	528,000千円
農地・水路災害	31力所	134,000千円
林道災害	7力所	68,000千円
県管理河川災害	14力所	154,200千円
合計	118力所	884,200千円

※H22年7月の大雨災害（土木関係）

被害額	61力所	646,400千円
比較	57力所 増	237,800千円 増

葛巻町消費者動向調査

町内の購買率は37.7%

葛巻町産業振興協議会（鈴木重男会長）と葛巻町商工会（吉澤信光会長）は、町内10自治会、1,060世帯を対象に、消費者動向（お買い物）調査を実施しました。この調査は、世帯構成や年齢、品目別にどこの店舗で町民が買い物をしているかなどの動向を把握することで、商店経営や中心市街地の活性化に役立てようとするものです。

市町村別の購買率については、葛巻町37.7%、盛岡市22.7%、八幡平市・岩手町15.0%、久慈市・八戸市11.2%、二戸市・一戸町11.3%、その他2.2%という結果になりました。（右図）

吉澤会長は「高い地元購買率とは言えませんが、この結果を真摯に受け止めて、さらなるサービス向上に努めます。また、今後も町と連携しながら、商工業への支援や中心市街地活性化など、地元での購買率向上のためにさまざまな事業に取り組みたいと思います。町民の皆さまも少しでも町内でのお買い物を意識して

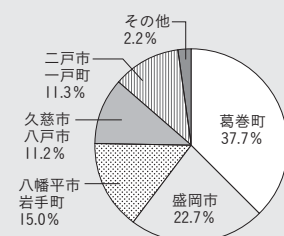
いただければうれしいです」と話しました。

町は、平成20年度からのまちなか活性化協議会への支援をはじめ、商工業へさまざまな支援を行っています。いろいろな事情で町内でのお買い物が難しいことがあるかもしれませんが、皆さまも町内でのお買い物を少しでも意識してみませんか？

調査の概要

1. 回答率
 - ①対象 10自治会、1,060世帯（H23. 4. 1 現在）
 - ②回答 545世帯（51.4%）

2. 市町村別購買率



※調査の詳しい結果は、町のホームページに掲載していますので、ご覧ください。

元気が出る講演会

小さなまちだからこそチャンスがある

町農業後継者等パートナー事業協議会（鈴木努会長）主催の「元気が出る講演会」は10月8日、くずまき高原牧場もく・木ドームで行われ、町内外から約150人が参加しました。花巻市を拠点に全国で活動する劇団「ぜんとようくらぶ」代表の志村尚一さんによる講演や劇団員による歌と踊りが行われました。

志村さんは宮沢賢治のポラーノの広場を紹介し「葛巻は小さなまちだからこそ、お互いを尊敬しあう地域社会を作るチャンスがある」と呼びかけていました。

会場は、志村さんの話と「ぜんとようくらぶ」の劇で笑いに包まれ、参加者は自分や家族、地域の魅力を再認識している様子でした。

この講演会や同日行われた「くずまきの魅力体験婚活ツアー」は、同協議会が町の将来を担う農業後継者などの確保のため取り組んでいるものです。

この日のイベントは交流サークル「くずまきgene（ジン人）」が実行委員となって大活躍。このメンバーは、7月から志村さんが講師の「自分の魅力発見セミナー」（全4回）を受講した町内在住の6人です。

代表の上路弘志さん（泉田）は「婚活イベントに参加



ひとりひとりのキラめきが輝く未来を作り出すと語る志村さん

11月8日は立冬です。山峡に暮らす私たちにとって、長い冬がはじまる覚悟の日とでもいいたいでしょうか？

先日、町婦人連絡協議会の「俳句を楽しもう」の会に参加しました。始めは「俳句は難しいもの」と16人の参加者全員が答えました。私のわずか8年の俳句経験からで申し訳ありませんが「17文字に上手な作品にしようとして、あれもこれも入れようとしてませんか。自分の心に正直に、一つにしようってみましょう」と話して作り始めました。

20分後、悩みながらも次々と俳句ができあがってきました。一人一句の発表に、歓声と拍手がわき上がりました。いつか力作をご披露できればと思っています。

今月は、冬の季語の中から、風と雨に関するものを掲げてみます。虎落笛もがりびす冬の烈風が電線や柵などに吹き付けて笛

葛巻俳句会 齊藤誠子さん

のようなき音を発すること
もがり笛

風の又三郎 やあーい
初時雨・時雨しぐれ（時雨しぐれの初め頃、晴れていたかと思うとさっと降り、たちまちあがつてしまう雨のこと。）

「村時雨」むらときり ひとしきり
振る時雨
「片時雨」かたときり 一方では晴れているのに一方では降る雨のこと
「横時雨」よこときり 横なぐりの時雨のことを

旅人と 我が名よばれん
初時雨
芭蕉

水にまだ
あをぞらのこる
しぐれかな
久保田万太郎
現代俳句歳時記 角川春樹編より

冬は家の中で過ごす時間が多くなります。季語を一つ決めて家族みんなが俳句を作り合うのも楽しい遊びと思いますが、いかがですか？



「ぜんとようくらぶ」と「くずまきgene」がー帯となり盛り上げました